

公園の風景

= 公園レストラン? =

観察ホールから垣間見たハヤブサの捕食行動、もがくキンクロハジロをしっかりと掴み汽水池の淵で息の根を止めようとしていた。これからハヤブサの食事が始まるのだ。先日（1月）もオオタカの若鳥がカンムリカイツブリを捕獲し草地へ引きずり込もうとしていた。だが、まだ成鳥に成りきっていないオオタカにとってカンムリカイツブリは手に余る獲物だった。暴れるカンムリカイツブリにともすると水の中に引き込まれそうになりながらもオオタカの若鳥は頑張った。しばらく2羽は喰うか喰われるか、命がけの戦いを繰り広げていたが、かろうじてオオタカが勝利した。こうした猛禽類たちの捕食風景は派手で人の目を引くが、公園のいたるところで生き物たちの捕食活動は日々行われている。まさに公園は生き物たちにとって怖くて楽しいレストランなのかもしれない。



食事中的ハヤブサ
それを見つめるカラス

= 子どもレンジャークラブの一年 =

3月20日、平成27年度の子どもレンジャークラブが終了し、子どもレンジャー認定証とレンジャーバッジの授与式があった。子どもレンジャークラブは毎月第3日曜日に公園が開催し、公園の自然について子どもの目線で観察するもの。今年度は26名が参加し、平成27年4月の「春の花をしらべよう」に始まって、平成28年3月の「さえずる鳥をしらべよう」までの12回、公園を歩き、生き物マップを作った。参加した子どもは「鳥が好きだから……来年も参加したい」と話していた。因みに子どもレンジャークラブは今年度で3回目。毎年参加する子どもも多い。



認定証授与式の様子